

平成 21 年度第 1 回四万十町地域公共交通会議 議事録

日 時：平成 21 年 5 月 27 日（水） 13：30～15：30

場 所：四万十町役場 東別館 2F 会議室

出席者：別紙のとおり

1 開会あいさつ

2 議 題

(1) 四万十町生活交通再編行動計画（案）について

(2) その他

企画課より、「本年度のこれまでの主な取組」、「四万十町生活交通再編行動計画（案）」及び「四万十町の各駅の課題・改善の方向性」について説明を行った。

【意見】

- ・ 計画そのものに異議はないが、これから計画を実行に移していくには J R の協力が必要だと考える。今更だが、J R もこの会議に入るべきではなかったのか？
→当初、この会議は空気を積んで走る路線バスを見直すことで、高齢化する山間集落等の住民の足を確保するために話し合いを始めた。また、鉄道路線のダイヤや本数の変更は容易ではないため委員に入れなかった経緯がある。ただし、駅の状況を再確認するなかで、今後 J R との連携は重要だと考えている。
- ・ 鉄道と路線バスについて、重複して運行している路線については一本化を検討という説明があったが、路線バスの方がきめ細かい対応もできる事から必要ではないか。
→同じ区間を鉄道もバスも両方が走っている路線については、どちらか一方にするということだが、これについては今後利用者ニーズを調査した上で検討する。
- ・ 2 頁の(1)③の「窪川駅での路線バスと通院バスの乗り継ぎ利便（情報発信、乗換方法）の向上」の実施期間には行政も入るべきではないか。
- ・ 乗り継ぎ運賃の導入を検討して頂きたい。運賃制度が改善されれば利用者も増えるのではないか。
→バスとタクシーの乗り継ぎは利便性向上策（1）の中へ項目を増やすようにしたい。
- ・ 前回の会議で提案したポストバスの方法は、郵便事業会社が人やモノを運ぶという考え方。今回の計画では路線バスが郵便物集荷を行う形になっている。
→こういった方法も海外では事例がある。また、郵便事業会社に問い合わせたところ、日本には事例がなく慌てていたが、話しをしていくと不可能ではないという回答であった。
- ・ 高南観光と北幡観光の路線バス乗り継ぎについては、ニーズがあればすぐにでも導入し、運賃制度の見直しは後で行う方法もあるのではないか。
- ・ また、路線バスの相互乗り入れについても、高南観光としてはニーズがあればぜひ行ってきたいという思いはある。
→路線バスの乗り継ぎや相互乗り入れは、基本方針を策定する段階でニーズが少なかつたため、鉄道を中心としたフィーダー線の強化に重点を置いた経過がある。今後、鉄道各駅の状況を踏

まえJRの動き方によっては、路線バスの相互乗り入れ等を再検討しなければならないかもしれないが、現段階では基本方針を軸とした行動計画にすべきではないか。

- ・ ニーズは確かに大切ではあるが、行政側からの考え方や町の将来像を見据えた対策も必要。相互乗り入れについても再度検討してみるべきだと思う。
- ・ 人が動くのは通院、通勤や買い物などであると思うが、特に通勤の方が公共交通機関を利用するようにしなければいけない。役場などの中心となる事業所が利用しやすいダイヤに見直す事も必要ではないか。また、十和地区と窪川地区をつなぐ通勤バスのようなものも良いのではないか。
- ・ 鉄道と路線バスが競合しているような状態にあるが、町として両方ともを維持していくのは難しくなる。どちらを確保した方が町民にとって有益であるか考えてみる時期にあるのではないか。
- ・ 大豊では、3名以上の方が乗り合いでタクシーを利用する場合、町内なら500円で行けるという施策を実施している。四万十町でもそのような事を考えてはどうか。
→実施した場合には、まず赤字になってしまうと思う。
→大豊での場合は、不足分については行政が補填している形だろうと思う。
- ・ 路線図等の情報提供について、地域に住む人以外は現状のものでは利用が難しい。例えば行き先を番号や色で表示するようにすれば、観光客などが詳しい地名を分かっているなくても利用しやすいのではないか。
- ・ 地域公共交通活性化再生総合事業は平成19年度からの3年間だったと思うが、活用する事は検討していないか。
→この事業は、法定協議会の設置が義務付けられている。また、事業を実施している自治体等に聞くと実際には実施できる事業が制約されるなど使い勝手がよくないという情報もあったため、活用を見送ってきた。しかし、ここにきて要求額がほぼ予算化されているという情報もある。一方で、他にも景気対策等での様々な交付金事業等が出てきており、各事業の研究をしながら活用に向けた検討をしたいと思っている。
- ・ 十和地域をモデル地区に設定した理由は何か。交通弱者が多いなど、利用者側の視点で見たときにモデル地区として適切か。
→旧町村別に見た場合、十和地域が、一番路線が少ないのが設定した理由である。また、議会の総務常任委員会でも十和地域をモデル地区にしてはどうかとの提案がされており、そちらとの整合性をとったのも理由の一つである。
→十和地域は他地域と比較すると路線が少ない。利用者側から見ても公共交通は必要不可欠である。
→町内は、どこを設定しても交通弱者ばかりなので、交通弱者の多少が設定の理由にはならないだろう。
- ・ 公共交通利用に転換した人に対する報償制度の検討とあるが、どのような報償なのか。また、効果について検証は行っているか。
→効果については不明であるが、アピールの要素が強い。例えば賞状を渡して住民に町の方針を理解してもらうなど。ただ、具体的な方法の検討は必要である。
- ・ 地域公共交通活性化再生総合事業を活用して、免許証の返納で公共交通を利用する場合に補助を行うなどして効果を上げている自治体もある。
- ・ エコポイントなどを導入して、地域の特産品や商品券を交付するなどの事業はできないか。
- ・ 合併時に検討されていたという、役場本庁と総合支所間の通勤バスは良い案だと思う。終業時間

がバラバラで帰りに便の設定が課題だが、仕事を定時にできるだけ終わるようにすれば仕事の能率そのものも上がるのではないかと。

- ・ 安芸市にある県の出先機関では、「ごめん・なはり線」の時刻に勤務時間を合わせる形をとり、公共交通の利用促進に繋げている。
→変形労働制度の実施も可能性はあると思う。
- ・ 木炭バスについては逆にCO₂を多く排出してしまうのではないかと。
→国内でも観光の要素を加えて実施している所がある。また、CO₂の排出については、地中に眠っている資源を掘り起こして使用するよりも良いというカーボンオフセットの考え方である。
- ・ 優先度がAになっていても、JRが絡む分など実施困難と思われるものがある。このAランクの中でも優先度を付けることが必要ではないか。また、学校再編計画もあり、それも見据えた計画策定が必要である。
- ・ 路線バスとスクールバスの連携について、普通はスクールバスに一般客も混乗するというのが一般的ではないかと思うが、計画では逆にになっている理由はなぜか。
→スクールバスは10人乗り程度のもが多く、多数の方が乗るには限界がある。既存の路線バスをスクールバスの機能も含めて運行する計画としている。
- ・ 病院との話し合いがAランクとなっているが、何を話し合うのかが分からない。例えば病院バスの運行ダイヤを変更するとなった場合、かなり先まで予約が入っているため数ヶ月の時間が必要である。全体の会議の中で協議するのか、個別で協議するのか、具体的なものが欲しい。
- ・ 実施機関に複数入っている項目が多いが、誰が中心となって具体的に動いていくのかが分からない。
- ・ 運行しているバス等は、有料のものと無料のものがある。無料のものが有料となった場合には利用者負担が発生することから、行政が中心となって支援していく事が必要だと考える。
- ・ 計画の優先度については、思い込みで入れてはいけない。内容をしっかり把握した上で決定してもらいたい。それぞれ個別に詰めの協議が必要ではないかと思う。
→会長及び事務局の判断で、必要であれば会議を召集するという事で良いのではないかと。
- ・ 十和地域については、アンケート等を実施して移動制約者のみを事業の対象とするのか。
→移動制約者のみとは考えていない。また、アンケートを行うのか、座談会等を実施するのかはまだ不明である。
- ・ もし地域公共交通活性化再生総合事業を活用するのであれば、内容をもっと絞ったうえでぜひ活用していただきたい。

【まとめ】

今後は、出された意見をもとに事務局が修正を行う。

修正した内容については、とり合えずこの会議は諮らずに完成品とするが、今後取組を進めていくなかで、必要に応じて会議を開催しながら見直しを図っていく。

まずは、ガイドラインの策定をしながら個別の協議に移る。

別紙

第5回四万十町地域公共交通会議 出席者名簿

■ 委員

組 織 名	氏 名	出欠確認	備 考
道路運送法9条で定める必要のある委員	四万十町	副町長 高瀬 満伸	○
	高知運輸支局	首席運輸企画専門官 一宮 軌善	○
	(有)高南観光自動車	代表取締役 生田 則明	○
	(有)北幡観光自動車	代表取締役 由類江 秋穂	○
	(有)窪川ハイヤー	山崎 健一	×
	新生タクシー	佐竹 憲雄	○
	丸三ハイヤー (本社)	三浦 ひろみ	○
	十和ハイヤー (十川)	芝 恒雄	×
	住民または旅客 (窪川)	富岡地区 榎本 利一	×
	住民または旅客 (大正)	下津井地区 下本 治男	×
	住民または旅客 (十和)	大井川地区 谷崎 直子	○
くぼかわ病院	事務長補佐 芝 司	○	
大西病院	事務部長 藤原 満子	×	
田辺医院	医院長 田辺 博之	×	
高橋内科・呼吸器科・消化器科	高橋 美華	○	
高知大学	准教授 藤塚 吉浩	○	
しまんと町社会福祉協議会	副会長 八木 雅昭	○	
四万十農業協同組合	営農推進課長 国廣 純一	×	
高知はた農業協同組合	支所長代理 藤本 憲一	×	
合 計		11名	

■ その他

- ・ 高知県地域支援企画員 (川田)
- ・ 四万十町企画課 (敷地、富田、伊藤)
- ・ Plan&Work えこ・まち研究室 (土居) ※アドバイザー

出席者合計：16名